

「リポジトリ」のシステム移行

本誌『図書館紀要』の既刊データも登録されている「早稲田大学リポジトリ」のシステム移行が、二〇二三年七月から九月にかけて行われた。

二〇一六年のDSpaceからJAIRO Cloudへの載せ替え以来、バージョン更新とは見え七年ぶりの大きな移行である。七万件を超える既存コンテンツの移行準備をはじめ、システム仕様の変更に伴う設定や登録手順の組み直しなど、かなりの手数と時間を要した。新システムの運用開始後も一部機能の不具合やリリース待ちがあり、新しいスキームに合わせて既存データを修正する必要も生じている。とはいえ、二〇二二年より一年以上にわたって頻発していた画面表示速度が異常に低下する障害が解消されたことは幸いであった。

本学のリポジトリでは、学位論文、紀要などの学内刊行物、学術論文を中心とする研究成果物が公開されており、誰もが無償で閲覧できる。さらに、世界的なオープンサイエンスの潮流の中、リポジトリには研究データの公開という新たな役割も期待されている。図書館は、学内の関係箇所と連携し、引き続き、学術情報の公開・利用のための環境整備を進めていく。今後とも、ぜひ、リポジトリをご活用いただきたい。

編集後記

今号では、雪嶋宏一氏「早稲田大学図書館所蔵マザリナード文書目録」を掲載した。詳細は紹介いただいたとおりだが、資料の整理状況について少し補足させていただく。コルヴェア家旧蔵書コレクションは、購入当初一部の資料の日録・解題を掲載した冊子を刊行して以降、早稲田大学図書館の統合検索MIZOを利用して検索できるよう整理を進め、まもなく全ての書誌情報が公開される予定である。

この数十年の間に、所蔵する資料の情報の公開方法は変わってきた。冊子体の目録からオンラインカタログへと、また公開される情報は書誌だけでなく、資料本体がデジタル画像として公開されるようになった。特に貴重な資料については、資料保護の観点からもデジタル化が望ましいとされる。当館は「古典籍総合データベース」で和書の貴重書を中心に資料のデジタル画像を継続的かつ網羅的に公開し、国際基準のIIIF（トリプルアイエフ）規格への対応も進めている。

最近では、海外の研究者から当館所蔵の明治期の逐次刊行物をOCR化し、研究に利用したいという要望が寄せられた。著作権や技

術的な問題はあがるが、デジタル化からテキストト化など研究者の要望や研究方法の変化を、できる限りタイムリーに捉えていきたい。図書館として、所蔵資料の情報をどのように公開していくのか、これからも丁寧に検討していきたいと思う。

左記六名の編集委員にて刊行しました。玉稿をお寄せいただき心より御礼申し上げます。

図書館紀要編集委員会

阪下 清香（資料管理課長）
畠田 修（資料管理課）
高木理久夫（資料管理課）
藤谷 桂子（資料管理課）
松尾 亜子（資料管理課）
山本さきり（資料管理課）

早稲田大学図書館紀要 第71号

二〇二四年三月十五日 発行

編集 早稲田大学図書館紀要

編集委員会
発行人 本 木 正 人
印刷所 株式会社 正文社
発行所 早稲田大学 図書館
東京都新宿区西早稲田一ノ六ノ一
〇三（五二八六）一七五四

